

パブリックスペースを活かしたまちづくりに関する研究 ～UPS（アーバンパブリックスペース）研究会 NW 部会を通じて～

Research on Regional Planning That Utilizes Urban Public Spaces

– Report on the Efforts of the Network Subcommittee of the Urban Public Space Research Group

福本大輔¹ 青野貞康² 林 健太郎³ 柊山和哉³ 廣瀬 健⁴

Daisuke FUKUMOTO, Sadayasu AONO, Kentaro HAYASHI, Kazuya MASUYAMA, and Takeshi HIROSE

1 はじめに

近年、公民連携（PPP）による都市整備や多様な主体による参加型のまちづくりが各地で活発に展開されるようになり、道路・公園・河川・駅前広場等の「公共空間」に加え、公開空地・敷地内広場・通路・鉄道コンコースなど「一般の用に供されている民有地」も包摂した「パブリックスペース」という概念が注目されている。特に、身近な都市内パブリックスペース（UPS: Urban Public Spaces）のより一層の充実の必要性が指摘され、UPSの新たな展開について様々な期待が寄せられている。

既に世界の多くの都市では、まちなかを車中心からひと中心の空間へと転換し、人々が集い、憩い、多様な活動を繰り広げられる場へと改変する取組が積極的に進められているが、わが国においても、こうした「居心地が良く歩きたくなるまちなかづくり」に賛同を示している自治体（ウォーカブル推進都市）が数多く存在している。

こうした状況を鑑み、2021年5月には（公財）都市づくりパブリックデザインセンター内において、都市内パブリックスペース（UPS）のあり方について民間事業者・学識経験者・行政機関などが連携して検討・提言する「UPS研究会」が設置され、以下の3部会に分かれて研究活動を行うこととなった。

- ・DM（デザイン・マネジメント）部会
- ・NW（ネットワーク）部会
- ・駅まちPS（パブリックスペース）部会

当研究所は、上記のNW部会の幹事を担うこととなり、情報収集やケーススタディの実施支援、とりまとめ等を行った。本稿は、2021年5月から2024年3月までのNW部会としての調査研究内容のとりまとめを抜粋し、再整理したものである。

2 研究方針

（1）NW 部会の役割・目的

まず、広場等空間を有効活用することは、まちが抱える課題の解決や目指す将来像の実現に寄与するのではないかという仮説を立てた。特に、広場等空間は単体で整備・活用する取組だけでなく、地域のまちづくりの時間軸上で複数の空間や施設と連携することや市民等の関わりを深めていく場として位置づける等、空間・人・時間をつなぐ役割を果たせるのではないかと考えた。

そこで、都市のパブリックスペースを整備・活用していく上で、広場等空間とまちづくりの関係性について、「地域とのつながり」に着目し、地域特性に応じた広場等空間の効果的な活用のヒントや取組ポイントを整理することを目的とした。

（2）調査の視点

広場等空間の効果的な活用の事例・ポイントを調査する際、以下の3つの視点に着目することとした。

①空間的つながりの視点

まちなかにおける複数の広場等空間や施設等の効果的なつながりを持つ取組に着眼

②ヒトのつながりの視点

まちの広場等空間を活用したまちづくりへの意識共有や共感づくり、共創まちづくりに向けた市民の巻き込み、公民連携まちづくり体制の構築に寄与する取組に着眼

③まちとPSをつなぐ時間的戦略やツールの視点

パブリックスペース（PS）を活用し、目指すまちづくりに寄与する効果的なつながりをつくるための時間的戦略やツールに着眼

（3）調査方法及びとりまとめ方針

まず、NW部会に参加または興味を持っている自治体

¹ 東北事務所次長、都市地域・環境部門 担当部門長兼グループマネジャー ² 都市地域・環境部門（東北事務所） 研究員 博士（工学）

³ 都市地域・環境部門 研究員 ⁴ 都市地域・環境部門（東北事務所） 研究員

(58市町)を対象としたアンケート調査を実施し、回答が得られた26市町の回答結果から、まちづくりにおいて広場等空間を活用する際の課題やケーススタディ地区として部会内で検討する意向等を確認した(表-1)。

その結果を用いて、各地域が抱えている広場等空間の利活用の課題や悩みについて、都市規模やまちづくりの段階で分類し、一方で広場等空間を有効活用している事例に関する詳細情報を入手し、関連付けて整理することとした。得られた情報は、取り組み段階別の各種課題に紐付けた事例として参照できる逆引きINDEXとして整理するとともに、前述の3つの視点別に各地区の特徴をカルテ形式でとりまとめた。

なお、それらについては、DM部会で検討するUPS戦略のあり方の参考情報として連携を図った(図-1)。

表-1 NW 部会における調査の流れ

年次	調査研究内容
1年目 (2021年度)	①活動方針の検討 ②事例調査 ・広場等空間を活用したまちづくりの先行的事例の整理 ・新都市拠点整備事業により整備された多目的広場の情報整理 等 ③自治体等へのアンケート調査 ・まちづくりの各段階における現場担当者の悩み、課題認識等の把握・整理
2年目 (2022年度)	④複数のケーススタディ地区における深掘り調査 ・各まちづくり段階において、参考となる工夫や取組のポイントを確認
3年目 (2023年度)	⑤得られた知見と事例地区から見たポイントの整理

NW部会の活動範囲とテーマ

- ・NW部会では、まちの課題解決やめざすまちづくりの実現に向け、効果的にパブリックスペースを活用するための取組ポイントを「3つの視点」から整理。

- 各地区の取組ポイントを3つの視点(空間/ヒト/時間/戦略やツール)から整理・シート化
- まちづくりの段階ごと取組課題(悩み)から「逆引き」できるインデックスの作成

<UPS戦略の全体像とNW部会の活動範囲・テーマ>



図-1 UPS 戦略の全体像とNW部会の活動範囲の関係性

3 まちづくりにおける広場等空間の活用事例の整理

(1) 空間的つながりに着目した事例整理

空間的つながりの視点においては、鉄道駅やまちの資源等を歩行者動線でつなぐことで回遊性向上やエリア価値向上を目指す事例(埼玉県宮代町)や、点から線、線から面へと段階的な公共空間の活用と再編を目指している事例(静岡県沼津市)など、複数の空間をうまくつなげる工夫がみられる事例を整理した(図-2、3)。



図-2 埼玉県宮代町における複数の広場をつなぐ事例

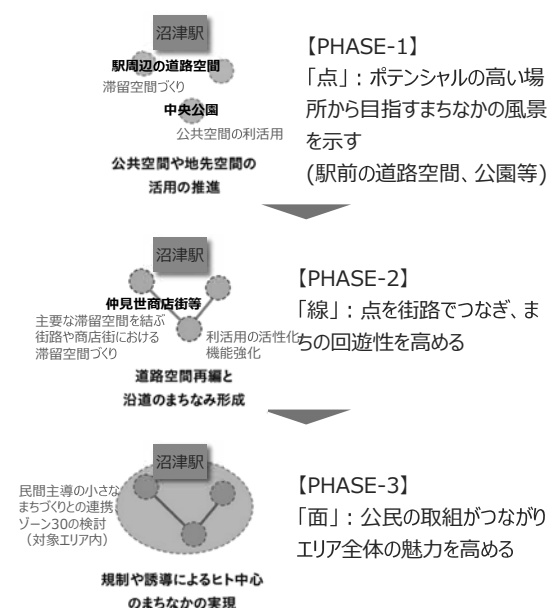


図-3 静岡県沼津市における面的な取組事例

(2) 人のつながりに着目した事例整理

人のつながりの視点においては、計画段階から市民を巻き込む展開を実施することにより、市民が主体的にまちに関わることができる場としている事例（長野県小諸市）など、多様な属性の人をつなぐ工夫がみられる事例を整理した（図-4）。



図-4 長野県小諸市における市民を巻き込む事例

(3) 時間的戦略やツールに着目した事例整理

時間的戦略やツールの事例としては、行政の専門部署や地域の検討組織を設立し、協働による社会実験を実施した上で、地元のビジョンと行政の方針策定に展開した事例（仙台市）などを整理した（図-5）。



図-5 宮城県仙台市における行政と地域の協働事例

なお、(1)～(3)の事例整理を行う際には、まちづくりの段階として「構想・計画段階」、「設計・施工段階」、「マネジメント段階」のどの段階に役立つ情報かを意識しつつ、3つの視点（空間的つながり、ヒトのつながり、時間的戦略やツール）ごとに、工夫や特性のポイントについて概略を整理した（表-2）。

表-2 3つの視点からみた事例地区の取組ポイント

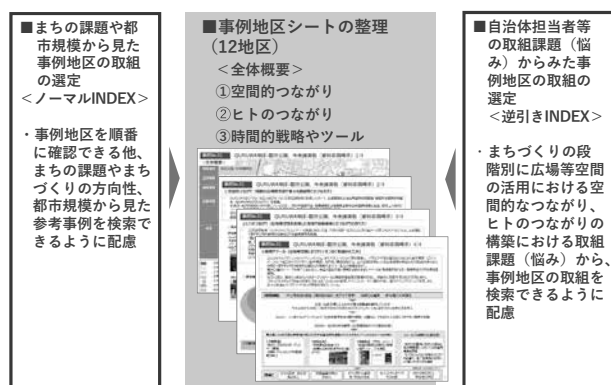
①空間的つながりの視点	
①空間的つながり 一体的な賑わい 店舗等 公共施設 PS整備 つながり強化 店舗等 PS再整備 文化財 PS活用 店舗等 鉄道駅 広場等空間とまちなかの施設との連携 施設間を広場等空間でつなぐ 広場等空間とまちなかを交通でつなぐ	
②ヒトのつながりの視点	
・複数の社会実験を通じたまちへの関わりの環の拡充 ・当初段階からの公民連携体制によるパブリックスペースの活用展開 ・まちなかの既存のつながり（町会、商店街等）を生かした公民の場の連携展開アイデア出しから、計画・設計への共有、共創整備、主体的な活用へと段階的な市民意識の深度化 ・個別のまちなかプレイヤーが育ち集まり、エリアマネジメントの組織への醸成	
③時間的戦略やツールの視点	
試行的取組みを踏まえた戦略策定 めざす姿を試行的取組みにより見える化 モビリティによる回遊性向上 目的に応じたSNS等活用による情報発信 Maas社会実験による回遊性向上 市民主体の社会実験で関わりを強化	

4 空間活用に関する課題に紐付けた事例集の作成

前章の対象として抽出された12地区については、3つの視点別シートを含むカルテ形式の整理を行った。また、2種類のINDEXを作成し、まちの課題や担当者の悩みと紐付けて事例を確認できるように工夫した。

表－3 事例集に関する2種類のINDEX

種類	活用イメージ
ノーマルINDEX	まちの課題や都市規模、活用している空間種別等から参考となる事例を選定する際に活用
逆引きINDEX	自治体担当者等の取り組み課題（悩み）から同様の悩みに対応した事例を選定する際に活用



図－6 事例集の全体像

表－4 事例集の対象12地区のノーマルINDEX（一部）

No.	自治体	対象地区	対象広場等空間	空間種別
1	岡崎市	QURUWAエリア	籠田公園、中央緑道他	公園、緑道、道路等
2	大分市	大分駅周辺地区	祝祭の広場、いこいの道	広場、緑道
3	前橋市	中心市街地地区	広瀬川河畔、馬場川通り他	道路、河畔、低利用地等
4	仙台市	定禅寺通エリア	定禅寺通（ケヤキ並木）	道路
5	尼崎市	阪急塚口駅南周辺地区	駅前広場	駅前広場
6	沼津市	沼津駅周辺エリア	駅前広場等	駅前広場、道路
7	さいたま市	浦和駅周辺エリア	市民会館跡地、さくら草通り他	広場、公園、緑地、道路等
8	宮代町	東武動物公園駅西口エリア	スキップ広場他	広場、公園、道路
9	長野市	中心市街地エリア	セントラルスクエア他	広場
10	長崎市	まちなかエリア	銅座川プロムナード	広場、緑道
11	小諸市	まちなかエリア	まちタネ広場	広場
12	さいたま市	さいたま新都心駅西口周辺	けやきひろば	広場

表－5 逆引きINDEXの対象とした取組課題（悩み）

段階	取組課題（主な悩み）	
	空間のつながり（ハード）	ヒトのつながり（ソフト）
構想・計画段階	- まちの課題解決やまちづくりへの対象となる広場等空間の位置づけ方 - 活用できる広場等空間がない（十分でない） - 初期段階での調査方法 - 広場等空間の効果的なつながり方 - 広場等空間を活用したまちなかの滞在人口や回遊性の増加方法	- 市民への効果的な呼びかけ方、集め方 - 効果的な公民連携組織のつくり方 - プレイヤー同士のつながり方 - プレイヤーの発掘方法や集め方
設計・施工段階	- 複数の広場等空間の連鎖的な活用方法 - 各種調査データの広場等空間の計画やデザインへの落とし込み方法 - 社会実験結果の計画設計への落とし込み方法 - 市民ニーズの効果的な計画設計への落とし込み方法	- プレイヤー同士のつながり方 - プレイヤーの発掘方法や集め方
マネジメント段階	広場等空間やそれを含めた地域の運営体制の構築	- まちづくりプレイヤー不足への対応 - 対象となる広場等空間の認知方法 - 市民主体の広場等空間の運用ルールづくり - 運営体制の構築方法 - 公民連携の運営主体の育成

5 おわりに

本研究では、まちづくりの段階や都市規模だけでなく、担当者の具体的な悩みに対応する形で情報を整理したため、各事例における工夫ポイントなどの詳細情報を入手しやすい事例集としてとりまとめることができた。ただし、各地域によって整備されているパブリックスペースの状況やまちづくりを担う人材などの環境・条件は多種多様であるため、先行事例の工夫ポイントがそのまま適用できることは限らないことには留意が必要である。その地域にあったUPS戦略を作成していくためにも、各部会で整理した知見や最新の情報を共有・発信していくことが重要であると考ええる。

謝辞

本報告は、UPS研究会NW部会の活動成果を再整理したものである。部会の活動においてアドバイスを頂いた法政大学の高見公雄教授、共同運営幹事を担っていただいた株式会社建設技術研究所と株式会社URリンケージの皆様のご協力に対し、この場を借りて厚くお礼申し上げる。